

## 甘利大臣による記者会見の概要

日時：4月25日（金）7:40～7:50

場所：内閣府本府1階エントランス

### 【冒頭発言】

昨日の日米首脳会談で両首脳から今回の首脳会談を一つの節目として、日米間の懸案を解決をすべく、閣僚間で精力的かつ真摯な交渉を継続するよう指示があった。これを受けて、私と USTR フロマン代表は昨日の午後、閣僚同士で再度協議を行い、そして昨晩は事務方で終夜の作業を続けてきた。首脳会談と閣僚同士の協議を通じて、日米間の重要な懸案について道筋を確認した。今後、日米が協力して TPP を早期妥結へ導くことが重要であり、他の参加国との協議を日米が連携して加速をしていく。

### 【質疑応答】

記者：オバマ大統領が今日の午前日本を発つが、オバマ大統領が日本にいる間の大筋合意は見送ったという理解でよいか。

甘利大臣：大筋合意というわけではない。もちろん進捗はあった。

記者：今回は大筋合意はできなかったということか。

甘利大臣：大筋合意というのが何をもってするかという定義はないが、大筋合意という表現はない。

記者：今朝、閣僚協議をやるかもしれないという情報があったが、やらなくなった理由は。

甘利大臣：事務協議で縮めるべき目安について、それなりの成果を得たということで、閣僚協議はしなかった。

記者：日米が合意に至らなかった、最後残っているのはどこか。

甘利大臣：全体での間合いは確実に縮まっている。全ては全体のセットなので、それはできていないということ。

記者：特に、豚肉と自動車？

甘利大臣：かねてから重要5品目と自動車と言っている。一つとして完全にセットされたものはない。

記者：道筋を確認したとのことだが、その点についてもう少し具体的に。

甘利大臣：今後、どのように協議を続けていったらよいかということが、確定できたということ。

記者：重要5品目と自動車について、それぞれ懸案事項、間合いが縮まった、進展があったというふうに見てよいか。

甘利大臣：そうだ。

記者：早期の妥結の早期として目指す時期はいつか。

甘利大臣：何月何日という着地点とはしていない。日米だけではなく、他の国とも完全にクローズしているわけではない。ただ、日米間の経済規模が TPP 参加国の 8 割ということなので、日米が収斂していく姿が見えないと各国がなかなか先に進んでいけないという事情があった。日米が収斂していく姿が見えてきつつあるので、各国とも引き続き今後、精力的に協議をしていきたい。そして、全体が収斂する着地点が見えたところで、閣僚協議ということになると思う。今までは、最初に閣僚会議だけセットされていたので、事務折衝が実りのあるものにならず、ただ時期が来るのを待って閣僚協議ではちっとも縮まらないということだったので、前回のシンガポール会合で私から提案したのは、収斂した先に閣僚会議を持ってこない、予め閣僚協議ありきだとその間のプロセスが実りのあるものにならないと強く言った。その方向で作業が進んでいるので、収斂が見えてくる先に閣僚協議があり、その先に着地点があるものと思っている。

記者：先ほど、今後どのように協議をしていくかが確定できたとのことだったが、今後、大筋合意の目途が見えつつあるということか。

甘利大臣：終結に向かって歩みつつあるということ。そして、整理するものがある程度整理されつつあり、残されている問題が次第に絞られつつある。その中で閣僚は何をすべきか、事務方が何をすべきか、この項目がかなり整理されてきたということだと思う。

記者：オバマ大統領来日を機に、両首脳から強い交渉促進の指示が何度かあったが、それにもかかわらず、日米の閣僚級協議が終着しなかった理由はどう考えるか。

甘利大臣：案件が膨大にあるので、両国にとっての死活的課題になっているので、首脳が加速をして 1 日 2 日でまとまるようなら本日までこんな苦労はしていない。

記者：総理が今回の大筋合意にかなり意欲的だったが、総理にはどのように報告するのか。

甘利大臣：総理には粗々既に報告した。

記者：声明はどうなるのか。

甘利大臣：共同声明は今調整中だ。

(以上)